

子どもたち一人一人の豊かな心を育む 道徳教育の充実を目指して

誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現の基盤となるのは、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共にによりよく生きるための道徳性です。本県においては、東日本大震災からの復興・発展を担い、岩手や社会全体をよりよい方向に変えていこうとする子どもたちの、豊かな心を育む道徳教育の充実が一層求められています。

そのためには、各学校の着実な取組が必要です。本リーフレットは、令和6年度道徳教育研究指定校である**陸前高田市立高田小学校**の貴重な研究実践を紹介しています。道徳科を要とした学校教育活動全体を通じて推進する道徳教育の充実に向けた取組の参考として、ぜひ御活用ください。

【陸前高田市立高田小学校 研究構想図】



陸前高田市立高田小学校 研究主題

陸前高田市立高田小学校では、周りへの感謝を忘れず、どのような状況でも前に踏み出し、自分の考えをしっかりともち、相手の立場に立って判断し、多様な考え方に気付き、よりよい生き方を模索し続ける「未来を切り拓いていく児童」を育成しています。

未来を切り拓いていく児童の育成

～復興教育を軸とした「学びをつなぐ」道徳科の授業づくりを通して～

復興教育テーマ「地域の人、文化、産業、歴史、自然を学び、ふるさとの未来を考える ～つながる つなげる 高田学～」との関連

1.復興教育に関する指導計画等の改善・充実と道徳教育との関連

(1) 道徳教育の全体計画及び別葉の見直し

道徳教育の重点目標	各学年の指導の重点	復興教育の重点項目
生命を尊 び、生命ある ものを大切に する態度を養 う。	低 生きていることのすばらしさや生命のかけがえのなさを 知り、 <u>生命を大切に</u> する。	⑤自分の成長 (いきる)
	中 生命の尊さを知り、自分と同様に、 <u>生命あるもの全てを大 切にする。</u>	⑩学校・家庭・ 地域等での日 頃の備え
(D: 生命の 尊さ)	高 生命が、多くの生命のつながりや支え合いの中にあるかけ がえのないものであることを理解し、 <u>生命を尊重</u> する。	(そなえる)

道徳教育の重点目標及び
各学年の指導の重点と復興
教育の重点項目の関連性を
整理した。
この表をもとにして、道徳
教育全体計画及び別葉を作成
した。

道徳科の内容項目と
教科等の関連性を意識
できるようにした。

内容項目は、復興教育
の3つの価値「いきる
(ピンク)・かかわる
(橙)・そなえる(青)」と
の関連性が分かるように
色分けをした。

教科・領域	内容項目	特別の教科 道徳	特別活動	国語	社会	算数
			学級活動			
			クラブ 児童会活動			
A 個性の伸長	●自分らしく/4月		●クラブ活動開始/4月 ●クラブ反省/11月	伝わるかな、好きな 食べ物/4月 たのしみは/6月 私と本/星空を届 けたい/7月 おすすめパンフ レットを作ろう/12月 詩を朗読して.../1 月		学びのとびら/4月
B 感謝	●こだわりのイナバ ウアー/2月		●感謝の会/2月	ぼくのブック・ウー マン/12月		
D 生命の尊さ	●捨てられたベッ たち/5月 ●命を見つめて /10月 ●その思いを受け ついて/2月	●登下校の危険/4 月 ●災害時のやくそ く/5月 ●安全な道路の歩 き方/10月 ●災害時の行動の しかた/11月 ●冬道の登下校/2 月		中学校へつなげよ う/生きる/人間 は他の生物と何が ちがうのか/3月	戦争と人々の暮らし /11月	

(2) 道徳科の年間指導計画と復興教育の年間指導計画の関連についての検討

復興教育の重点項目のねらい	道徳の内容項目 ※学習指導要領解説より引用
【自分の成長】 自分の成長や生活が <u>多くの人の</u> 支えで成り立っていること に <u>気付き</u> 、感謝の気持ちをもつ ことができるようにする。	【個性の伸長】 (1) 内容項目の概要 P38 個性とは、個人特有の特徴や性格であると言われている。個性の伸長は、自分のよさを生かし更にそれを伸ばし、自分らしさを発揮しながら調和のとれた自己を形成していくことである。(後略) 【生命の尊さ】 (2) 指導の要点 P69 ■ 第1学年及び第2学年 (前略)自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや、 <u>自分の生命に対して愛情をもって育んできた家族の思いに気付く</u> など、 <u>自分の生命そのもののかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。</u> (後略)

復興教育の重点項目と
道徳科の内容項目の関連
を整理するにあたり、そ
れぞれの内容を照らし合
わせる作業を行った。

これをもとに、復興教
育と道徳科を組み合わ
せた年間指導計画や単元
の指導計画等を作成した。

2.復興教育の重点項目と道徳科の内容項目とを関連付けた授業実践

(1) 道徳科における「学びをつなぐ」授業づくり

①既習事項を生かし、自分の中の 学びを本時の問題解決に <u>つなぐ</u>	②自分の考えと相手の考えを比較・ 検討し、他者と <u>つなぐ</u>	③復興教育単元での学びを道徳科 の学びに教科横断的に <u>つなぐ</u>
◇これまでの学習経験を活用 ◇登場人物と自分の生き方をつなぐ	◇多様な考えにふれる話し合い ◇指名の工夫	◇復興教育単元の学習を活用 ◇関連性を図る
		
○児童が自分の経験について発言 できるように促すことができた。 ○「(登場人物) みたいにはできない けど～」などと、自分事として捉 える発言や記述が増えた。	○多様な考えにふれる場面を意図 的に位置付けたことにより、自 分の考えをもつことにつながり、人 に伝えることで考えを醸成する 時間になることができた。	○復興教育単元(総合的な学習の時 間等)で学んだことを想起でき るような導入の工夫や発問の吟味 をすることができた。

(2) 道徳科の年間指導計画の実施と評価・改善

互見授業や授業研究会を通した道徳科の授業改善

互見授業の実施により、発問や板書の工夫、ペアやグルー
プの話し合いの仕方など、授業者側の視点と児童側の視点の
両方を学ぶことができた。→ 教師の学びも「つなぐ」

【互見授業の実践】※高田小の実践から

- 期日・教材名のみ全職員に周知
- 授業実践後、参観者と授業者でリフレクションを実施
- 授業だより作成(研究主任)→ 板書・発問・児童の反応
- 授業だよりを全職員に配付

互見授業 5月29日(水) 3年 道徳

主題名 明るい心「千羽づる」

内容項目 A 正直・誠実

- つけたい力(資質・能力)「伝える力」にかかわって
- 自分の考えを分かりやすく相手に伝える(話す・書く)
- ・自分の経験を本時の問題解決につなぐ学び
- 学んだ実感、学びを振り返る必要感

- 児童の学習活動と「学びをつなぐ」授業とするために
- ・児童の発言から、問い返す発問【児童同士の学びをつなぐ】

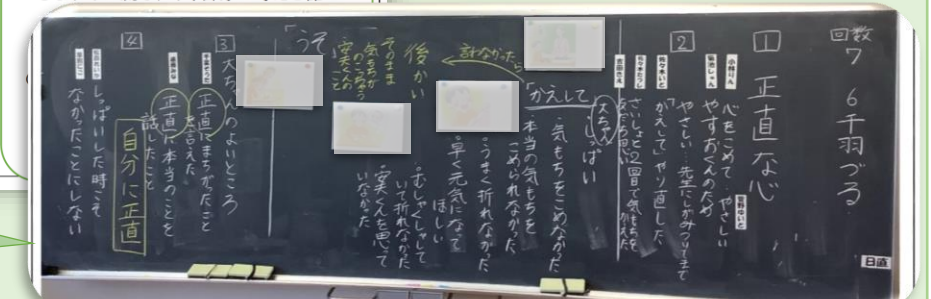
自己課題「多様な考え」から学ぶ授業

【目指したい児童の姿】

- まわりに流されず、自分の考えを話せ

互見授業後に研究主任が「授業
だより」を発行。
同僚性を高めるとともに、授業
者の授業改善に寄与している。

板書の記録も共有



3.保護者や地域・関連団体と連携した道徳教育の推進

	復興教育における <u>防災学習</u>	復興教育の学びを発信する 「 <u>高田学の日（授業公開）</u> 」	地域のボランティアの方々を 招待して行う「 <u>感謝の会</u> 」
と の 道 徳 教 育 の 関 わ り	【関連内容項目】 A 節度、節制 D 生命の尊さ	【関連内容項目】 C 伝統と文化の尊重、国や郷土 を愛する態度	【関連内容項目】 B 感謝
内 容	◎高田小防災デー ①全校登校指導 ②児童引き渡し訓練 ③「生命の尊さ」に関わる道徳科 の授業 ◎ <u>防災マイスター</u> の防災学習 ・「めざせ！津波避難マスター」 ・「ポリ袋調理に挑戦！」 等	◎復興教育に関わる単元で学んだ 学習を <u>保護者や地域に発信</u> 1年「親子でぼうさい」 2年「高田のすてきを伝えよう」 3年「陸前高田カルタをつくろう」 4年「想いをつなげよう」 5年「こちら高小情報局」 6年「このまち大好き・夢プラン」	◎感謝の会の開催 自分たちの学校生活を支えてく ださっている <u>地域のボランティア</u> の方々を招待し、感謝の気持ちを 伝える。 ・お礼の言葉、メダルの贈呈 ・全校合唱の披露 等
活 動 の 様 子	 ③「生命の尊さ」に関わる授業 【振り返り】 ・命は大切に、つながっていることが 分かりました。（4年） ・昔の自分と今の自分を重ねることで 成長の発見がありました。心や命が あることが、自分にとっての今生き ているようです。（5年）	 2年「高田のすてきを伝えよう」 【振り返り】 ・一本松ホールのくふうがすごいと思 いました。（2年） ・「ゆめちゃん」について考えました。 高田を明るくするために「ゆめちゃ ん」ができたと思いました。私も高 田を明るくしたいです。（3年）	 

研究の成果と課題

- 各学年の復興教育の年間指導計画に道徳科の年間指導計画を組み入れたことで、身に付けたい力を整理し、教育活動全体を通して道徳教育の充実を図ることができた。その結果、児童自身が様々な場面でよりよい生き方を考える姿が見られた。
- 道徳科の授業における児童の思考の過程や発言のつながりが見える板書構成の工夫により、読み物教材の登場人物と自分の生き方をつないだり、自分の考えと相手の考えを比較・検討したりしながら、相手の立場に立って判断したり多様な考え方に気付いたりすることにつながった。
- 道徳科の授業づくりを中心として、児童が自分の考えをもつことや、他者と関わりながら学ぶことを積み重ねてきたことで、道徳的価値に対する考え方に広がりや深まりが見られるようになった。
- 総合的な学習の時間や生活科を軸とした復興教育単元の指導計画に道徳科の年間指導計画を位置付ける際、復興教育の重点項目と道徳科の内容項目の擦り合わせが難しい部分があった。今年度の実践を踏まえ、全体計画を柔軟に見直していく必要がある。
- 道徳科の授業づくりにおいて、「価値理解」に迫る発問の吟味に課題が見られた。発問の意図、文言によって、児童の思考が変わるという意識をもって発問を精査していきたい。